



IWAMATSU, TSUSHIMA AREA WAS DESIGNATED AS ONE OF THE NATIONAL PRESERVATION DISTRICTS FOR GROUPS OF HISTORIC BUILDINGS.



津島町岩松が 重伝建地区に 選ばれました

宇和島市津島町岩松伝統的建造物群保存地区



昭和初期の雰囲気も色濃く残る岩松は、江戸・貞享の頃に宇和島より分家した藩の御用商人で、後に庄屋格を与えられた小西家によって開かれた地です。幕末から明治・大正・昭和初期にかけて隆盛を極めた岩松は、三つの蔵元が軒を連ねる酒どころでもありました。そんな岩松がこのたび国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれました。

町並み保存の制度について ～津島町岩松の町並みを守るために～

◆伝建地区と重伝建◆

伝建地区（伝統的建造物群保存地区）とは、文化財保護法と都市計画法に基づき、歴史的な町並みのある地区を指定し、伝統的な建物や町並みを一体的に保存、整備していく制度です。

伝建地区では、保存計画（伝統的建造物群保存地区保存計画）を作成し、町並み保存の基本的な考え方や、保存地区のための具体的な決まりごと、例えば新しく建てる建物についてのルールや町並み保存の支援策などを定めて、その運用を行います。

伝建地区の内、国から特に重要なものと評価された地区が重要伝統的建造物群保存地区（重伝建、重伝建地区）に選定されます。

◆届出関係◆

地区内のすべての建物は、その現況を変更するときなどは、あらかじめ、市に申請して許可を受けることが必要になります。

許可の対象となる行為

- 建築物・工作物等の新築、増改築、移転
- 建築物・工作物等の修繕、模様替え又は色彩の変更で、その外観が変更されるもの
- 建築物・工作物等の除却及び木竹の伐採など
- 宅地の造成などの土地の形質の変更
- 外構、門塀、塀、看板、建築設備、自動販売機などの設置

許可の対象としない行為

- 外観を変更しない内部のみの改修

◆伝統的建造物◆

保存地区内の建造物（建物・門・塀・石垣など）は、伝統的建造物とその他の建造物に分けられます。

江戸時代から昭和40年代までにつくられた建造物で、地域の建造物の特性を有していると認められ、保存に同意いただいているものを「伝統的建造物」と定めています。

◆建物修理等の助成◆

保存地区内の伝統的建造物の修理やその他の建物を周囲の町並みに調和するものに改修する場合、主にその外観部分について助成を受けることができます。

補助額については、宇和島市伝統的建造物群保存地区保存事業補助金交付要綱に基づき、予算の範囲内において補助金が交付されます。

種類	補助対象	補助率	限度額	
伝統的建造物	主屋・付属屋等	外観保存のための屋根、外壁等及び構造耐力上必要な部分に係る経費	8/10以内	上限無し
	主屋・付属屋等の新築・増築又は改築	保存のため必要な鳥虫害等防除工事に係る経費	8/10以内	100万円
		履歴調査・修理計画設計に係る経費	8/10以内	40万円
工作物	当該物件の修理に係る経費	8/10以内	200万円	
伝統的建造物以外の建造物	主屋・付属屋等の新築・増築又は改築	外観を伝統的建築物等に準じて歴史的風致を維持したものに限り、その経費のうち屋根、外壁、軒先等の伝統工法による修景に係る経費	2/3以内	500万円
		維持のため必要な鳥虫害等防除工事に係る経費	2/3以内	50万円
工作物	外観を伝統的建築物等に準じたもの又は歴史的風致を維持したものに修景するために係る経費	2/3以内	200万円	

※町並み保存に関するお知らせは随時チラシ・HP等でお知らせいたします。


お問い合わせ
宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課
電話 0895-49-7033 FAX 0895-22-5058
e-mail bunka@city.uwajima.lg.jp

宇和島市HP
津島町 岩松の町並み



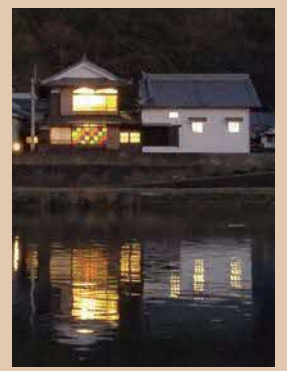
津島町岩松 伝統的建造物群保存地区 町並み見学案内

臨江寺 享保2年(1717)開山。小西家の支援で本堂を明治43年に改築。山門は昭和14年建設。



中道 川筋付替の後に芳原溝沿いにできた裏通りです。溝の名残の石垣が各所に残ります。

大商人小西家
貞享元年(1684)に宇和島城下の商人米屋惣兵衛が岩松で酒造業をはじめました。その後、製塩・製蠟・新田開発など家業を拡大し、藩の御用商人として藩政に貢献したため、名字帯刀を許されます。分家である東小西家共々岩松の発展を支えますが、物流ルートの変更や戦後の農地解放を受けて徐々に家業を縮小していくことになります。川沿いの離れや蔵は河川付替後に川港として栄えた岩松の一時代を偲ばせます。



岩松で見られる建物の年代と種類


土居ノ奥川沿いに農家住宅が、本通りを中心に町屋や長屋造の建物を見ることができます。また、戦後になると戸建の小規模住宅が各所に建てられます。大正時代以降に建てられた洋風の建築も見られます。

	江戸	明治	大正	昭和(戦前)	昭和(戦後)
農家住宅	…	○	○	○	
町屋	○	○	○		
長屋	…	○	○	○	○
小規模独立					○
洋風建築			○	○	○

土居ノ奥 岩松が町場として発展する以前の農村集落の雰囲気が残っています。

代官所跡 港町の谷筋にある高石垣は幕末の絵図には宇和島藩の代官所跡と記されています。宇和島藩領は10組に分けて管理されており、旧津島町域は津島組とされ、代官が置かれました。


戒神社 岩松地区の氏神である三島神社のお祭りの時に御旅所となります。元は下本町2丁目のセンバにありましたが、大正頃に川港が移動したことで現在地に移されました。



本通り 江戸時代から街道沿いに形成された町場で、伝統的建造物がよく残っています。

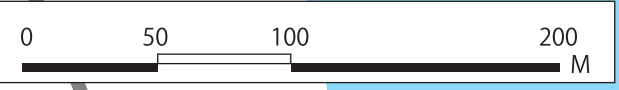
川通り・浜通り 河川付替に伴い明治以降に町場になりました。新橋の北側が川通り、南側が浜通りです。

港町 港機能の下流側への移動に伴い、農村だったところの川沿いが町場となりました。



思いや 伊予の涯にて 初硯
獅子文六と岩松 作家獅子文六は夫人の出身地である岩松に昭和20~22年に戦後疎開してきました。東小西家(現在の大畑旅館)に逗留しており、その経験を元に昭和23~24年小説「てんやわんや」を発表、翌25年には岩松でロケが行われた映画が封切られました。

※地区内の建物はほぼ個人のお宅です。町並み見学の際には通りからの眺めを楽しみください。



芳原溝 今の岩松橋あたりにあった池から、岩松の南の芳原村の水田へと水を送っていた石積み水路。大正時代に蓋をされて中道の一部になっています。

岩松川の河川付替 小西家が宇和島藩に新田開発と治水を目的に届出を行い、慶応2年に岩松川を現在の流れに付替えました。



津島町岩松付近之図 (慶応2年以前) 所蔵：(公財)宇和島伊達文化保存会



①川通りの町並み ②中道の町並み ③土居ノ奥の町並み ④本通りの町並み ⑤港町の町並み